

(3) 担当部署

計画の 担当部署	名 称	国立競技場 事業課
	電 話 番 号 等	03-5843-1300
公表の 担当部署	名 称	総務部 総務課
	電 話 番 号 等	03-5410-9124

(4) 地球温暖化対策計画書の公表方法

公表方法	ホームページで公表	アドレス :	https://www.jpnsport.go.jp/corp/gaiyou/tabid/265/Default.aspx
	窓 口 で 閲 覧	閲覧場所 :	
		所在地 :	
		閲覧可能時間	
	冊 子	冊子名 :	
		入手方法 :	
そ の 他	アドレス :		

(5) 指定年度等

指定地球温暖化対策事業所	2021	年度	事業所の使用開始年月日	2019	年	12	月	1	日
特定地球温暖化対策事業所	2023	年度							

2 地球温暖化の対策の推進に関する基本方針

弊法人は、地球温暖化対策を含めた地球環境の保全が、人類共通の重要な課題の一つであること、また、設立目的である「スポーツの振興と児童生徒等の健康の保持増進を図ることで、国民の心身の健全な発達に寄与すること」を達成するためには欠かすことのできない重要な要素の一つであることを認識し、次の基本方針に沿って、着実かつ継続的に地球環境の保全に取り組めます。

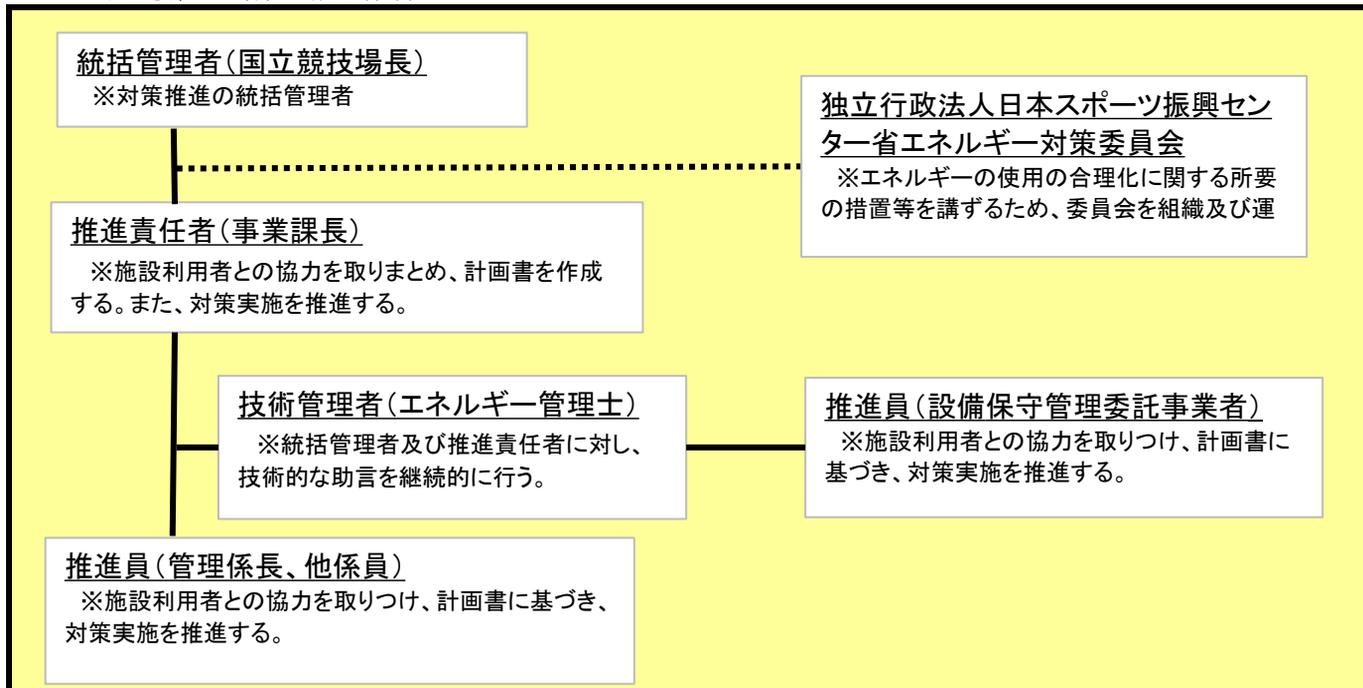
【基本方針】

1. 当センターが行う事業活動等が、環境に与える影響を的確にとらえ、地球環境の保全に寄与し得るように努めます。
2. 資源・エネルギーの消費や廃棄物の排出による環境への負荷を認識し、省資源、省エネルギー、資源のリサイクル活動に努めます。
3. 環境目的と目標を設定し、取組み結果を見直すことにより継続的に環境を改善し、環境汚染の予防に取り組めます。
4. 環境に関連する法律、規則、条例及び当センターが同意する環境保全に関するその他の要求事項を順守します。
5. 本方針を当センターの全役職員及び当センターのために働く全ての人に周知徹底させるとともに、広く公表します。

再エネの導入・利用に関する取組みについて：

- ・大屋根先端部に建材一体型高効率結晶系シーソー太陽電池モジュールを設置し、常時稼働させている。
- ・外灯に太陽光と風力のハイブリッドソーラー外灯の設置し、常時稼働させている。

3 地球温暖化の対策の推進体制



4 温室効果ガス排出量の削減目標（自動車に係るものを除く。）

(1) 現在の削減計画期間の削減目標

計画期間	2020 年度から 2024 年度まで			
削減目標	特定温室効果ガス	管理事務所及び防災センターにおける省エネルギーの継続的な取り組みに加えて、エネルギー管理標準に基づく運転監視・管理・記録・保守等の実施により、総量削減義務（17%見込み）の削減を目指す。		
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス	当事業所から排出される特定温室効果ガス以外のガス（その他ガス）は、水道の使用及び下水道への排出に伴う二酸化炭素の排出である。したがって、節水を行うことでその他ガスを削減することができる。節水の呼びかけ等の取り組みにて、水道の使用量を計画期間中に2%以上削減することを目標とする。		
削減義務の概要	基準排出量	t（二酸化炭素換算）/年	削減義務率の区分	I-1
	排出上限量（削減義務期間合計）	27,030	t（二酸化炭素換算）	平均削減義務率

(2) 次の削減計画期間以降の削減目標

計画期間	2025 年度から 2029 年度まで	
削減目標	特定温室効果ガス	空調・照明の運用を見直し、運転監視・管理・記録・保守等を行うことにより、第三計画期間以上の削減を達成することを目標とする。
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス	引き続き節水を行うことで、その他ガスを現状の2%以上削減した状態を維持する。

5 温室効果ガス排出量（自動車に係るものを除く。）

(1) 温室効果ガス排出量の推移

単位：t（二酸化炭素換算）

		2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
特定温室効果ガス（エネルギー起源CO ₂ ）		3,294	5,719	4,706		
その他ガス	非エネルギー起源二酸化炭素（CO ₂ ）					
	メタン（CH ₄ ）					
	一酸化二窒素（N ₂ O）					
	ハイドロフルオロカーボン（HFC）					
	パーフルオロカーボン（PFC）					
	六ふっ化いおう（SF ₆ ）					
	三ふっ化窒素（NF ₃ ）					
上水・下水		22	23	31		
合計		3,316	5,742	4,737		

(2) 建物の延べ面積当たりの特定温室効果ガス年度排出量の状況

単位：kg（二酸化炭素換算）/㎡・年

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
延べ面積当たり特定温室効果ガス年度排出量	17.2	29.8	24.5		

6 総量削減義務に係る状況（特定地球温暖化対策事業所に該当する場合のみ記載）

(1) 基準排出量の算定方法

<input type="radio"/> 過去の実績排出量の平均値	基準年度：（ ）
<input checked="" type="radio"/> 排出標準原単位を用いる方法	
<input type="radio"/> その他	算定方法：（ ）

(2) 基準排出量の変更

	前削減計画期間	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
変更年度						

(3) 削減義務率の区分

削減義務率の区分	I-1
----------	-----

(4) 削減義務期間

2023年度から	2024年度まで
----------	----------

(5) 優良特定地球温暖化対策事業所の認定

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
特に優れた事業所への認定					
極めて優れた事業所への認定					

(6) 年度ごとの状況

単位：t（二酸化炭素換算）

		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	削減義務期間合計
決定及び予定の量	基準排出量(A)				15,445	15,445	30,890
	削減義務率(B)				8.00%	17.00%	
	排出上限量(C = Σ A-D)						27,030
	削減義務量(D = Σ (A × B))						3,860
実績	特定温室効果ガス排出量(E)						
	排出削減量(F = A - E)						

(7) 前年度と比較したときの特定温室効果ガスの排出量に係る増減要因の分析

増減要因	<input type="checkbox"/> 削減対策	<input type="checkbox"/> 床面積の増減	<input type="checkbox"/> 用途変更
	<input type="checkbox"/> 設備の増減	<input checked="" type="checkbox"/> その他	
具体的な増減要因	前年度は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催及び通年での稼働となる初年度であり、排出量が高かったため。		

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対策の名称	実施時期	備考
	区分 番号	区分名称			
			【特定温室効果ガス排出量の削減の計画及び実施の状況】		
1	110100	11_推進体制の整備	推進体制・役割・方針・取組内容等の決定	2022年度～	地球温暖化対策推進体制の決定、役割及び方針の明確化、取組内容の決定、点検の実施。
2	110200	11_主要設備等の保安全管理	主要設備等の保安全管理	2019年度～	日々の巡回時に行う自主点検や年次での保守点検等により、保全に努める。
3	110300	11_計測・記録の管理	計測・記録の管理	2019年度～	自主点検に加えて、設備ごとに使用量を記録する。
4	110400	11_エネルギー使用量の管理	BEMSによるエネルギー使用量の管理及び運営へのフィードバック	2023年度～	BEMSにより運営管理にフィードバックを行うとともに、使用量を月ごとに把握し、月・年ごとに比較できるようにする。
5	120300	12_運転管理及び効率管理	部分負荷時の熱源運転の適性化	2021年度～	中間期における低負荷時のマニュアル運転の実施（熱源機器の停止・運転台数の減少）
6	120300	12_運転管理及び効率管理	部分負荷時の空調用ポンプ運転の適正化	2021年度～	中間期における低負荷時での熱源運転のマニュアル運用（熱源ポンプの停止・運転台数の減少）
7	120300	12_運転管理及び効率管理	熱源機器の冷温水出口温度設定値の調整	2021年度～	季節毎に冷温水出口温度設定値の変更を実施する。
8	130100	13_空気調和の管理	ファンの間欠運転の実施	2022年度～	トイレ・機械室等の24時間運転しているファンの間欠運転を実施する。
9	130200	13_空気調和設備の効率管理	電気室PAC季節毎の運転管理	2021年度～	冬季～中間期（11月～4月頃）は電気室のPAC停止。温度監視をして適宜運転する。
10	150200	15_照明設備の運用管理	照明の人感センサーによる在室検知制御の導入	2022年度～	トイレ照明人感センサーの点灯時間を設定変更する。
11	150300	15_事務用機器等の管理	事務用機器の運転管理	2019年度～	省エネルギーの設定。長時間運転しない場合は停止させる。
12	160100	16_昇降機の運転管理	昇降機の運転管理	2019年度～	利用状況や用途別に運転台数の調整を行う。利用者に階段の利用を推奨する掲示を行う。
13	160200	16_建物の省エネルギー	居室の昼休み及び時間外の消灯及び間引き点灯	2022年度～	管理事務所における不要箇所の消灯及び間引き点灯の実施。
14					
15					
16					

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対策の名称	実施時期	備考
	区分 番号	区分名称			
17					
18					
19					
20					
		（再生可能エネルギーの設備導入及び利用の状況）			
71					
72					
73					
		【その他ガス排出量の削減の計画及び実施の状況（その他ガス削減量を特定温室効果ガスの削減義務に充当する場合のみ記載）】			
81					
82					
83					
		【排出量取引の計画及び実施の状況】			
91					
92					
93					

8 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価（自動車に係るものを除く。）

弊法人においては、地球温暖化対策を含む地球環境の保全を意識し、省資源・省エネルギー・資源のリサイクル等積極的な取り組みを進めている。地球温暖化対策の推進に当たっては、以下の点を重視し、実施している。

1. 国立競技場の設計にあたって

国立競技場の建設においては、設計段階で施設運用の特性に配慮した省エネルギー計画や高効率機器及び環境物品の採用により、環境性に配慮している。

■設備全般

①共用部を含んだ施設内のエネルギー使用状況を把握し、設備機器の運用管理が適切に行えるBEMSを導入

■電気設備

①一般照明及び競技用照明へのLED器具の採用

②超高効率変圧器の採用

③電力監視システムによる待機電力及び電圧器無負荷の削減

④次世代型人感センサー（T-Zone Saver）による省エネ照明制御

■衛星設備

①井水利用、雨水利用及び排水再利用を活用

■空調設備

①ファン・ポンプ類のモーターへのプレミアム効率モーター導入

2. 管理事務所及び防災センター等における省エネルギーの継続的な取り組み

竣工したばかりということもあり、まず職員一人ひとりが施設の設備を把握することに努めた。施設管理体制を整えとともに、役割及び方針を明確化した。事務機器の省エネルギー設定や不要な電気を消灯する等の取り組みを実施した。

3. 国立競技場に従事する職員に対する自然環境意識向上のための啓発活動の推進

クールビズの推進し、管理事務所内における省エネルギー対策の取り組みに関する掲示・周知等を行った。

4. エネルギー管理標準に基づく運転監視・管理・記録・保守等の実施

国立競技場におけるエネルギー管理標準を定め、設備の運転監視、管理、記録、保守等の取り決めに明確化した。2021年度においては、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、通年で稼働させたことにより、イベント時及び非イベント時双方のエネルギー使用量を把握することができた。今後は、これらの記録を基にエネルギー使用量削減のための対策を検討していきたい。

再エネの導入・利用に関する取組みについて：

- ・大屋根先端部に建材一体型高効率結晶系シーソー太陽電池モジュールを設置し、常時稼働させている。
- ・外灯に太陽光と風力のハイブリッドソーラー外灯の設置し、常時稼働させている。